

町で部分日食が観測できました

7月22日（水）、日本で46年ぶりの月が太陽を完全に覆い隠す皆既月食が鹿児島県のトカラ列島や奄美大島北部などで起こりました。

あいにくその日は全国的に曇り模様で、皆既日食やその周辺で起きる部分日食がわずかな地域でしか観測できなかったようです。

幸運にも当町では、午前10時頃から太陽が顔を出し始め、部分日食を欠け始めから終わりまでのほとんどを観測することができました。約20分間の天体ショーに、役場を訪れた方々はレンズを片手に太陽をじっと見つめながら感動している様子でした。

次回起きる日本での皆既日食は、26年後の9月に北陸や北関東の付近だそうで、ぜひそのときは現場で皆既日食を見たいものですね。



太陽を見るときは専用のレンズを使う



△当町から見えた部分日食。約20分間太陽が欠けていた。



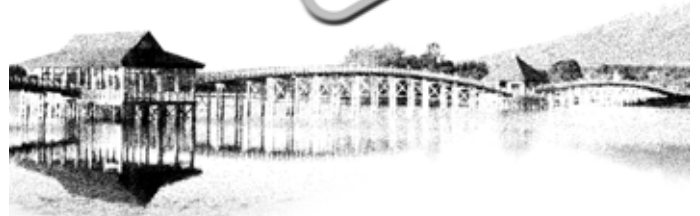
7/22 奄美大島 皆既日食観



7/18 本町 皆既日食観



7/18 奄美大島 皆既日食観



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。(☎22-2111 内線263)

山道地区のルーツを探る

このほど、一戸信行さん（山道地区行政推進員）が、山道地区の名前のルーツを調べた「山道を築いた人々の記録」を自主出版して話題を呼んでいます。

この記録誌は、同地区の友人で昨年11月に亡くなられた故小野寺榮さんと、3年前町内会の会合で「自分たちのルーツを調べてみないか」と話が上がり、ぜひやってみようと一緒に始めたのがきっかけで、何回か地区の皆さんに集まってもらって家や地区の昔の話を聞いたり、また、図書館に向き名前の資料や名字の出どころを丹念に調べあげて、3年の歳月をかけて作りました。

この本を出版した記事が、地元の新報に掲載され、それを見た山道地区出身の方から、たくさん連絡をいただいているようで、一戸さんはとても嬉しそうに出版のこと語っていました。



△一戸さんのお孫さん（亜美ちゃん・5歳）と記念写真

若さほとばしる・鶴高ねぶた

7月17日（金）、鶴田高等学校（柳谷睦夫校長）では、鶴高祭の一環として、生徒や教職員など200人が参加して、手づくりのねぶたの運行と女子生徒によるよさこいソーランの踊りが披露されました。

今年で6年目を迎える鶴高ねぶたは、八木橋清志さん（田中町）の指導のもと1か月ほどかけて製作した人形ねぶたを、鶴高前からスタートして、駅前、本町、元町を通り、鶴遊館へと運行しました。

鶴遊館では、デイサービスを利用する皆さんの前で、ねぶた囃子とよさこい踊りの披露が行われ、この日を待ちわびていた利用者の皆さんは、若さあふれる鶴高ねぶたに惜しみない拍手を送っていました。



△利用者の前で披露される



△エネルギーに踊る鶴高生たち。



△みなさんいつまでもお元気で長生きしてください。

ますます元気です・米寿祝賀会

7月18日（土）、鶴遊館で平成21年度米寿祝賀会が開催されました。

米寿祝賀会は、米寿（数えの88歳）を迎えた方々を祝い、これからも元気で生きがいのある生活を送ってもらおうと毎年行われています。

今年の対象者は、大正11年生まれの方々と、82人（男性19人・女性63人）となり、祝賀会では、中野町長から記念品が一人ひとりに手渡されました。また、アトラクションでは、民謡、三味線などを鑑賞し楽しいひとときを満喫しました。ぜひ100歳の金メダルを目指して、いつまでもお元気で！



△町長から手形が渡される

子どもたちにカブトムシを贈る

7月15日（木）、鶴田町ライオンズクラブ（花田正逸会長）が、社会奉仕活動の一環として、子どもたちに生き物に触れ自然を大切にしたいと、管内の小学校・保育所など8か所の施設にカブトムシの成虫と飼育セットをプレゼントしました。

このカブトムシは、同クラブ監事の小田桐功一さんが趣味で飼育した200匹で、小田桐さんが子どもたちのために何か役立てないかと、このプレゼントを思いついたのだそうです。

カブトムシをもらった園児たちは、花田会長さんたちにお礼を述べた後、われ先にと飼育ケースからカブトムシを取り出してじっと観察をしていました。



△さっそくカブトムシを手にして喜ぶ園児たち